



心ゆたかに 力たくましく—— 1974.12 No. 4

あすなろ風体

AOMORI 52



総合2位を獲得した本県自転車陣

第32回国民体育大会青森県実行委員会



第29回国民体育大会

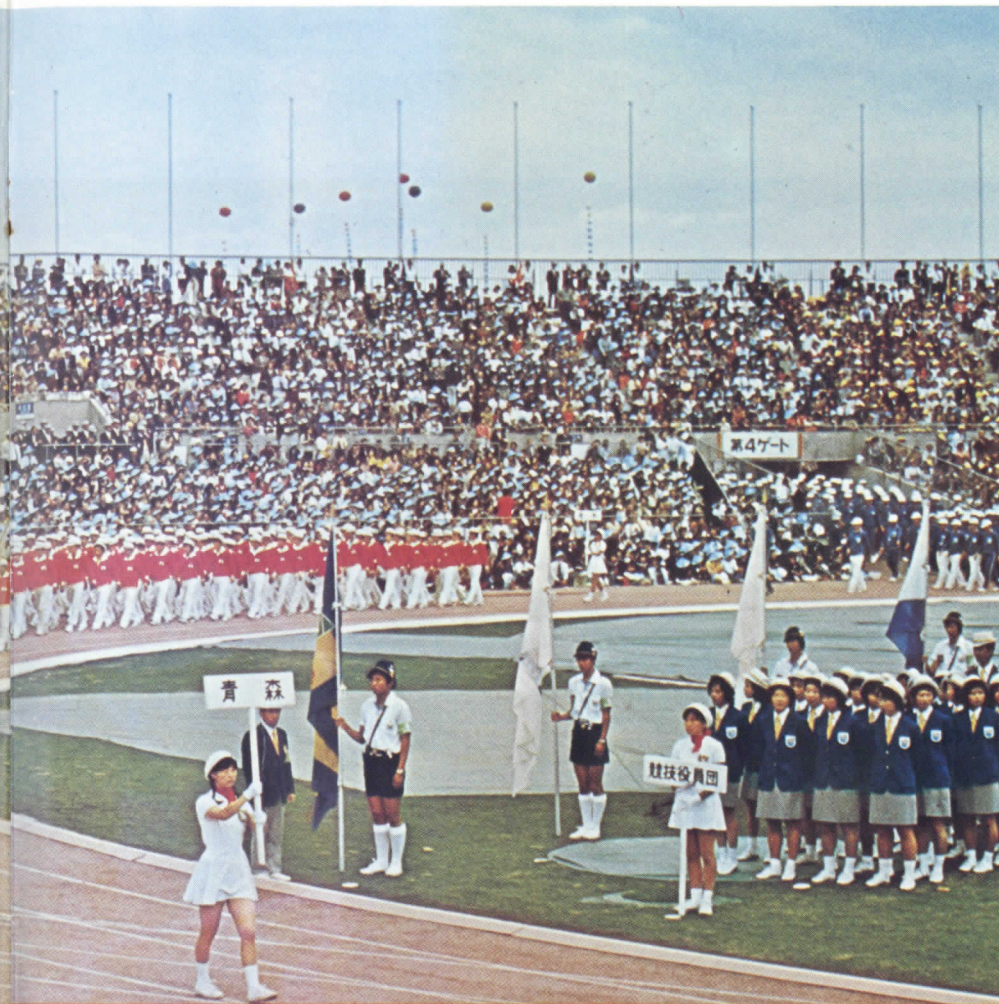
茨城国体で活躍する本県選手

「水と緑のまごころ国体」と名づけられた第29回国民体育大会は、十月二十日から二十五日まで、茨城県下二十六市町村で開催された。

本県は田名部団長以下総勢三〇六人を送り、三年後の「あすなろ国体」へ向けて各地で熱戦を繰り広げた。総合成績では、天皇杯十五位、皇后杯二十二位を獲得した。



茨城国体開会式は、新装なった県営笠松運動公園陸上競技場で行われ、本県選手団は北海道に次いで2番目に入場。本県初の女性旗手浅利由美子選手(円盤投 青西高) →



を先頭に赤いリンゴ色のユニホームを着た本県選手団は3年後の「あすなろ国体」へ向って堂々の入場行進ぶりを見せた。

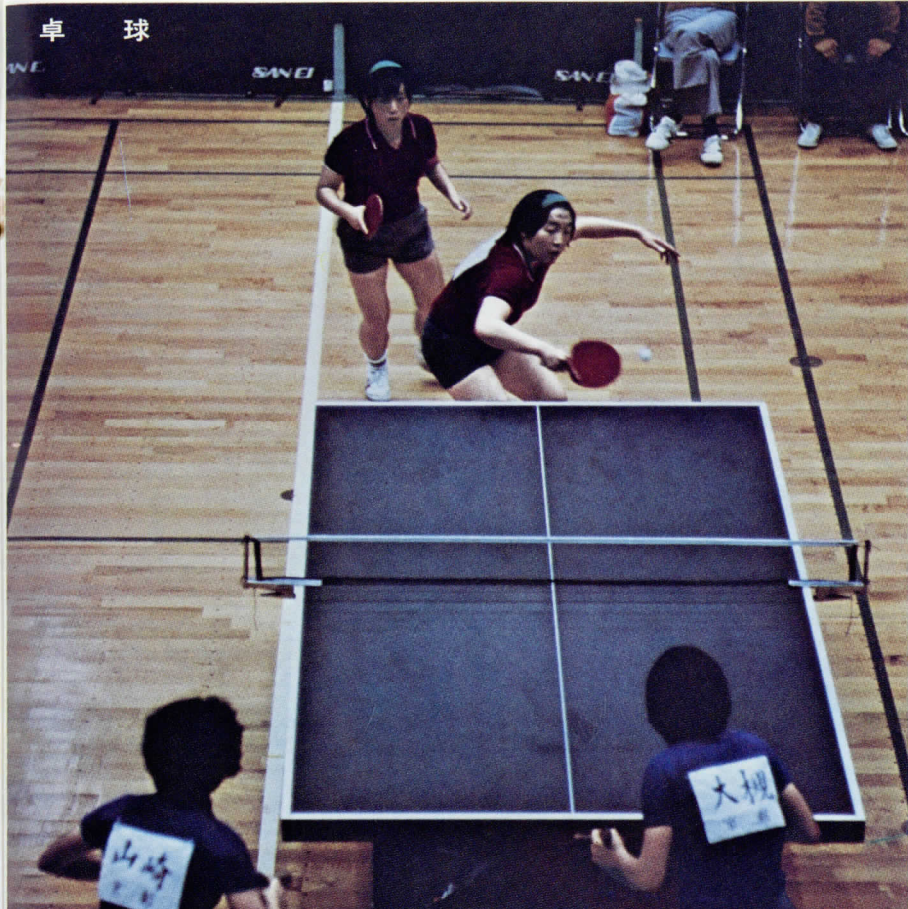




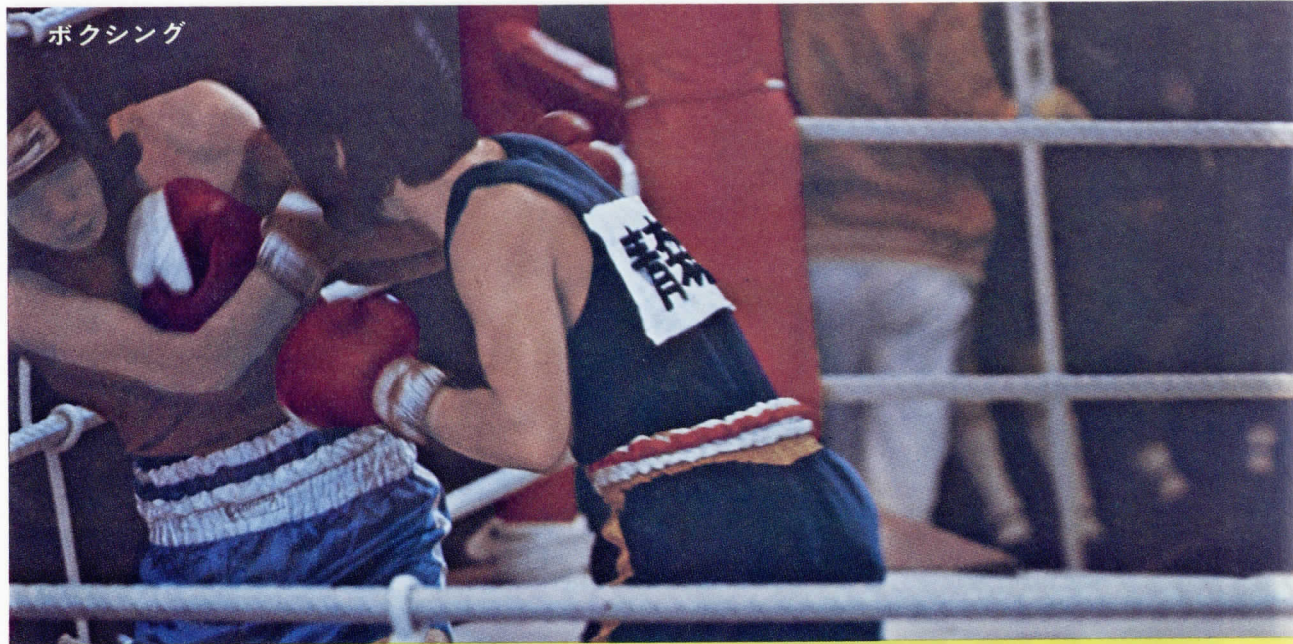
全体的に競技レベルが向上

茨城国体秋季大会二十七競技中二十二競技に出場した本県の競技成績は、まず、卓球高校女子が優勝、自転車競技は各種目とも好成績をおさめ総合二位、注目のボクシングは高校三位、一般二位で連勝記録をはばまれたが総合優勝を飾った。相撲では教員男子が準優勝を果たした。しかし、

本県お家芸の一つであるレスリングはふるわず入賞外に落ちた。また、本県の競技成績全般から見ると一回戦で敗退するケースは少なくなり、全体的に競技レベルは向上し、「あすなろ国体」へ明るいきざしが見えた。



予選、準決勝と順調に勝ち進んだ高校女子は、決勝で京都と対戦、堂々の試合ぶりで快勝、予選から1ゲームも落さず完全優勝を成し遂げた。
(写真上・決勝対京都戦で善戦する新保・音坂コンビ 下・表彰をうける本県選手)



一般8連勝、高校3連勝をねらう本県選手。高校は準決勝、一般は決勝で惜しくも敗れ連勝記録はストップ。しかし、総合では優勝を果たし、お家芸の面目を保った。
(写真・高校準決勝対岩手戦)



教員団体は予戦3勝1敗で通過、準決勝では地元茨城を下したが、決勝で和歌山に惜敗、初の準優勝をかざる。
(写真・準決勝対茨城戦 一戸隆 上手投げ決まる)



陸上 高校女子200m決勝進出の和田選手。(青東高)



ハンドボール 優勝候補東京都と対戦、善戦する七戸ユニオンチーム。(白いユニホーム)



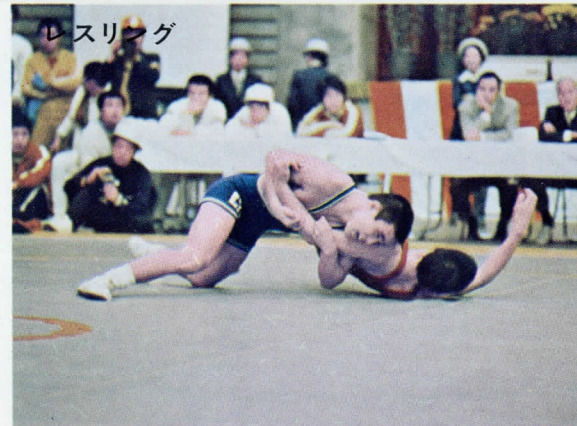
フェンシング 一般男子フルーレ戦で活躍する本県選手。



弓道 男子近的で見事3位入賞を果たす。



サッカー 高校1回戦和歌山を下したが、2回戦地元茨城に惜敗。(白いジャージが五戸高)



レスリング 高校男子フリースタイルで善戦する本県選手



「あすなる国体」県民運動始まる「下」

●親切にする運動

この運動は、「親切で明るい郷土をつくる」ことを目標として、みんなで、親切にする気風を盛りあげ、青森国体を心からあたたく迎えるとともに、進んで善意と奉仕の活動をする県民性の伸長をはかりましょうというのがねらいです。



この運動は県民総参加による自発的なものでなければ大きな成果をあげることができないでしょう。

- 小さなことでもすすんで人のためにつくそう。
- (1) 困っている時は、互いに助けあおう。
- (2) 老人や子供、体の不自由な人をいたわろう。
- (3) 小さな親切や善行を認めあおう。

● 真心をこめて、あたたく接しよう。

- (1) お客を大事にし、心のこもった応待をしよう。
 - (2) 誠実な販売を行い、気持よく買物ができるようにしよう。
- を実践項目としてとりあげています。

●明るく礼儀正しい態度で接する運動

この運動は、親切にする運動と同じように「親切で明るい郷土をつくる」ことを目標として心のかよった礼儀正しさをもち、明るくはきはきと行動する県民性を養うというのがねらいです。

- いつも明るい態度で接しよう。
- (1) いつも笑顔で先にあいさつしよう。
- (2) 「ありがとう」「どうぞ」で感謝と譲りあいの気持を表わそう。

● はつきりといねいなことばを使おう。

- (1) 郷土の紹介や道案内には、ていねいなことばではつきりとしたえよう。
- (2) 電話や受付窓口では、てきぱきと好感のもてるような応待をしよう。

を実践項目としています。この運動は、地域住民、各種団体、学校及び行政機関が一体となって実践活動を展開し、よ



りよい県民性の伸長と明るく豊かな郷土づくりをはかっていることとしていきます。

県民一人一人が自分たちの力で、心のかよった礼儀正しさを、あたたく社会をつくるよう、積極的にこの運動に取り組んでいきましよう。

そして、県民みんなの胸に、心のかよった礼儀の灯をともし、五十二年「あすなる国体」をあたたかく迎えますよう。

● 交通ルールを守り

事故をなくする運動



この運動は「親切で明るい郷土づくり」の一環として、家庭を中心に交通安全を考え、一人一人が交通安全を自覚し、連帯とゆずりあいの心を養いましょうというのがねらいであります。したがって、まず、家庭を中心として、子供や老人、そして歩行者、運転者の交通安全運動をすすめるために、実践項目を、

- 交通安全は、まず家庭から始めよう。

家族みんなで交通安全について話しあい、子供に正しい交通ルールを身につけさせよう。

- 歩行者は交通ルールを守ろう。道路への飛出しや車の直前直後の横断をやめ、横断歩道、歩道橋等の安全施設を利用しよう。

- 運転者は相手の身になって、安全運転に心がけよう。酒飲み運転、スピードの出し過ぎは絶対やめよう。

などとして、歩行者とくに子供と老人の安全確保及び交通三悪（酒酔い、無免許、暴走運転）徹底追放するため実践活動を展開しています。

県民一人一人が家庭で交通安全を話しあい、明るく住みよい郷土をつくるため、積極的にこの運動に取り組んでいきましょう。そして五十二年には事故のない明るい国体を迎えたいものです。

● 健康生活を

すすめる運動

健康生活をすすめる運動は、「みんなで楽しくスポーツに参加しよう」の基本目標の一環として、みんなでスポーツを楽しみ規則正しい日常生活を送り、健康な体と豊かな心を養おうと行われるものです。

国体はスポーツを普及し、国民の健康増進と体力の向上をはかり、国民生活をより明るく豊かにすることを目的としておりますので、五十二年「あすなろ国体」開催を契機として、この

国体の主旨をこの運動に盛りあげ、県民の健康増進と体位体力の向上などが県民全体の自発的な活動として、将来にわたって推進されるようこの運動を展開していきます。

この運動では、関係団体、市町村と連携をとりながら、実践項目を、

- (1) 栄養のかたよりや偏食をなくし、食生活の改善を図ろう。



- (2) 家族みんなで、レクリエーションに親しみ明るく健やかな家庭をつくろう。
- (3) 日常生活に民謡体操等の全身運動をとり入れよう。

とし、健康教室の開設、保健衛生思想の普及活動、野外レクリエーションの普及等をすすめていきます。

県民のみなさん、スポーツ、レクリエーションに積極的に親しみ、健康で明るい生活を送りましょう。



みんなですポーツに親しもう

「少年ラグビー スクール」

青森市ラグビー協会の多年にわたる念願でありました少年ラグビースクールが去る六月二十三日青森県総合運動場で開校されました。

子供たちに正しいラグビーを通して、不撓不屈の精神を涵養し、併せて集団の中の個のあり方を自覚させたいとの願いでありました。

スクールは毎月二回（日祭日）午前十時から二時間行われ、トランプスタイルの小学生約百人が、青空の下でのびのびと芝生の上を走りまわり、嬉々として楕円のボールを追う光景は無上の喜びを感じさせます。

水泳、田代平のキャンプ等、楽しくもまた意義のふかかった思い出を織りまぜて、今年スクールは一応終了しました。そして来春は、他県のラグビ



ースクールとの交歓試合等、新たな構想の下に出発いたします。県下の他の地区にも開校の機運が醸成されております。少年ラグビー育成の輪が次第に大きくなることを念願しております。そして、スクールを通じてのスポーツ精神の高揚が「あすなろ国体」の成功につながることを信じております。

なお、関心をお持ちの方は、左記へ御連絡下さい。
（青森県庁国体局 小平善一）

「チビッツ レスリング教室」

レスリングを通じてチビッツの体力づくりとレスリング王国青森の底辺づくりを……と去る六月から「チビッツレスリング教室」が開催されることになりました。

この「チビッツレスリング教室」は県アマチュアレスリング協会の主催で、毎週日曜日午前十時半から二時間八戸市体育館で開かれ、四・五才から十才ぐらいまでのチビッツ約二十〜四十名が参加しております。

最初は両親に手を引かれて集まったチビッツたちも今では一人で体育館にせつせと通い、さすがレスリングの本場八戸だけあって、意欲的に白いマットの上を動き回っています。

コーチ陣も各種柔軟体操、ゲームなど約二時間にわたり、なれぬチビッツ相手に大奮闘。チ



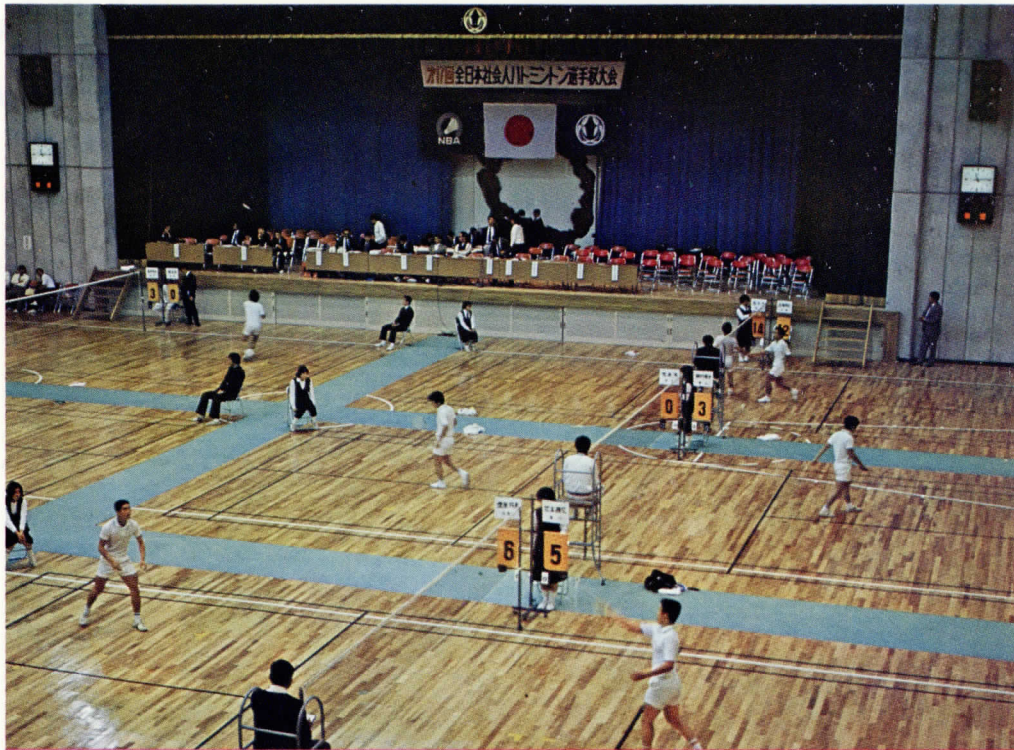
ビッツも汗を流しながら、真剣な表情でコーチを受けており、和気あいあいの中、熱心な練習ぶりをみせています。

今では、基礎づくりをしながら、簡易なルールで試合ができるほどの上達ぶりに関係者を喜ばせております。

チビッツたちにスポーツの楽しさを教えよう。体力をつけてもらおう。という願いも徐々にかなえられ、レスリング王国の底辺づくりは順調にすすんでいます。なお、関心をお持ちの方は直接八戸市体育館へお問い合わせ下さい。



52年を目指す《あすなる》達



青森国体リハーサル大会として行われた、全日本社会人バドミントン選手権大会。
(於、浪岡町民体育館)



全日本剣道大会県予選。



全国高校駅伝県予選。



「随想」…県民総参加のあすなる国体を



「国体の思い出」

山本トヨ (旧姓富山)

国体参加の思い出は沢山あるがその中から特筆すると初出場
の昭和十八年奥日光である。弘
前高女三年の冬、それも初めて
スキーをはいたのが小学六年だ
から、スキーを始めて三年目にな
ったばかりである。

恩師工藤浅吉先生に連れられ
木炭バスにゆられて会場入りし
た。いよいよスタートしたが最
後の急斜面に来て、スキーはピ
タリと停止してしまつた。「富
山おりろ／＼／＼」と激励の声
はきこえるが両足が立ちすくみ

どうしてもその壁を滑走できな
かった。今でもその写真を見る
度に大笑い！。その次は岡山県
に嫁ぎママさん選手になって三
十六年赤倉国体の時に皇后杯を
載き、ささやかな恩返しができ
たことである。

四十一年夏帰郷し、四十二年
大鰐国体の時は出発審判をさせ
ていただいた。女子選手やジュ
ニアの育成に努力し、私にかわ
つて国体に続々と参加してくれ
た。四十五年俱知安国体でゼツ
ケン六五番を背にして完走でき
たことが最後になった。
女子アルペン界において国体
十回以上参加出場の記念メダル
を前にして、氣力を失うことな
く、ひたすら「あすなる国体」
の成功を祈る昨今である。

(大鰐中学校教諭)



「茨城国体を 視察して」

千葉富嗣

初めて見た国体開会式……

それは予想していたよりも華や
かで、また感動的なものであつ
た。とくに、広いフィールドを
埋めつくした幼稚園児の遊戯、
小学生、中学、高校生、一般婦
人まで参加して展開された集団
演技は茨城県の歴史、文化、自
然を表現したもので統一され、
各年齢層が一同に会した最後の
場面では、各演技の見事な調和
のうえに、大きな盛りあがり

見せてくれた。

各団体共通の目標である「県
民全体の国体への参加」、またと
くに茨城国体でとり上げたとい
う「郷土を知る運動」県民運動
の大きな集約であつたようだ。

国体開催の目的は、施設の充
実はともかくとし、スポーツの
振興と県民性の向上を図ること
が大きなねらいであつてみれば、
県民の手で国体を成功させよう
という気運の盛り上がり国体
開催を意義づける大きなポイン
トとなつてくるようである。

その意味で茨城国体でとりあ
げた「郷土を知る運動」は、国
体を機会に郷土を再認識すると
同時に県民の総意の集約という
点で大きな役割を果たしていた
ようであり、「あすなる国体」
開催をひかえた本県の県民運動
を進めるうえで大いに参考にな
るように感じられた。

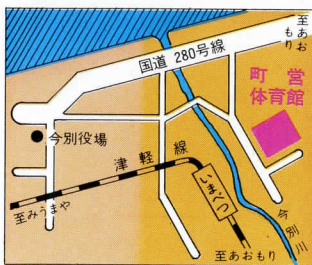
(県国体実行委員会事務局)

植樹第一課)

め 施設
ぐ ぐ
ッ



フェンシング会場 今別町営体育館



青森国体フェンシング競技会場である今別町にフェンシング競技主会場となる今別町営体育館が十一月に完成されます。

体育館は、鉄骨二階建、たて三十九・二メートル、よこ三十八メートル、広さは一、九四九平方メートル、収容人員四〇〇人で、中には管理室、シャワー室、ロッカー室、ステージ、器具室等が完備されます。

フェンシング競技の場合六ピストの広さがとれ、青森国体開催時には約三二〇名の選手により、この体育館で熱戦が繰りひろげられることになるでしょう。

今別町ではこれまで町営の体育館がなく、町のスポーツ愛好者は学校施設等を借りてプレーを楽しんでいましたが、この体育館の完成で、町のスポーツ熱は一段と高まることでしょう。

《回覧》

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

あすなろ国体 第4号

昭和49年12月1日発行

- 企画・発行／第32回国民体育大会青森県実行委員会
- 題字／青森県知事 竹内 俊吉
- 編集・レイアウト／株式会社 プレスアート《仙台》
- 印刷／今野平版印刷株式会社《仙台》